第５次北海道食育推進計画の概要

計画期間：令和６年度～令和10年度

参考資料2

社会情勢の変化

（１）世界の食料情勢の変化による食料安全保障上のリスクの増大
- 食料需要の増加や異常気象による大規模な不作など、中長期的な食料需給逼迫の懸念
- 新型コロナウイルス感染症に伴うサプライチェーンの混乱
- 農産物や生産資材の価格高騰など

（２）食生活の変化や社会のデジタル化の影響
- 食の外部化や簡便化の進展
- 消費者の行動を及ぼすデジタルメディアの影響拡大
- 自宅での料理や食事の機会の増加

（３）食品アクセスの問題の顕在化
- 物価高騰により健康的な食生活の実現に支障
- 食品を簡単に購入できない「買い物困窮者」等の発生
- 物流の2024年問題

（４）高齢化率の上昇

北海道の食育の現状と課題

（１）食育に対する理解と取組
- 新型コロナウイルス感染症の影響による対面型や体験型の食育活動の中断

（２）道民の食生活と健康への影響
- 野菜、果物、食塩の摂取量の目標が未達
- 朝食を食べる児童生徒の割合が減少傾向

（３）食品ロスの削減
- 食品ロスの問題への認識はあるが、削減目標が未達

（４）地産地消
- 学校給食の地場産物の活用割合は全国平均より高い

（５）食育の担い手と地域の推進基盤
- 市町村食育推進計画の作成が停滞
- 高齢化や後継者不足による食育の担い手の減少

コロナ禍による取組の中断や高齢化による食育の担い手の減少への対応が必要

＜重点事項＞
- **子ども及び子育て世代の食育の推進**
- **道民との連携とネットワークによる推進体制の強化**

主　な　推　進　施　策

第5次計画におけるスローガン

心も体も食べて育とう。北海道の食がつなぐ未来

子どもの時から食べる、つくる、食材を知るという体験をしながら大人になり、健全な食生活や地域の「食」が次世代に受け継がれていくことをイメージ

施　策　１　健全な食生活の実践

- **栄養バランスを考えた食事の実践**
  - 子育て世代や子どもを含む若い世代に対し、料理教室や食生活に関する講座等を開催
- **規則正しい食生活の実践**
  - 高齢期や青年期において手軽に実践できる方法を提案
  - 学校・家庭・地域において共に食事をとりながらコミュニケーションを図り、食の楽しさや基本的な生活習慣づくりへの意識を向上

朝食を毎日食べている小・中学生の割合の増加
R4年小6　81.5%　中3　77.4%　→　R10年小6・中3　100%

施　策　２　食に関する知識の習得

- **食と環境の関係を考え行動する力の習得**
  - 食品ロス削減への理解促進と「どさんこ愛食食べきり運動」などの普及啓発を実施
- **地域の食を知り伝える力の習得**
  - 北海道らしい食づくりの伝承名人の活動を促進し、伝統的な北海道の食文化の継承を推進
- **地産地消の意義を知り実践する力の習得**
  - 農林漁業者や食品加工業者など多くの人々が支える食のサプライチェーンへの理解を深める取組を推進
- **食に関する情報を正しく理解する力の習得**
  - 各種媒体を活用した食に関する様々な情報発信を強化

食品を購入する際に国産や地域の食品を選ぶ道民の割合
R4　85.2%　→　R10　90%以上

施　策　３　食育の担い手育成と地域の推進基盤の強化

- **食育を進める人材の育成・活用**
- **食に関わる関係者のネットワークの強化**
- **食育を推進する基盤づくりの促進**

食育の取組件数（学校、市町村、団体・ボランティア）
R4年1,492件　→　R10　年1,800件以上

- 北海道食育コーディネーターや北海道らしい食づくりの伝承名人の地域における活動を促進し、本道における食の担い手を育成
- 地域における関係者間のネットワークの構築を推進
- 地域関係者との連携強化のため市町村食育推進計画の策定を促進